

ネパール・ミカの会

会報 No.1

1997年8月15日

連絡先：〒194-02 東京都町田市常盤町3196 世羅美庵内

Phone: 0427-98-0046

— ネパール・ミカの会発足にあたって —

会長 斉藤 謙也

本会は、平成9年7月12日、築田寺においての設立総会をもって正式に発足した。発足に参加した会員は31名（8月5日現在38名）である。

「ゆっくりと」、「ささやかに」、「仲よく」、「心をこめて」活動していこうとする我が会が、どのような歩みをするか、いつまで続きうるのか、正直のところ、よく分からない。「何故、ネパールなのですか」という質問にも明確には答えられそうにもない。

しかしながら、昨夏、不思議な縁（えにし）釈尊生誕という輝かしい地ルンビニで、『フト』出会った「雨降り校舎」、「何とかできぬものか」という素朴な思いが、「呼びかけ」という形となり、結実して、マホマディア小学校校舎修復完成となった。そこで得たものは、ネパールの人々とのつながりと同時に、一つの目的をもって集うキズナの大切さであった。

ネパールを知る旅行。支援を願うネパールの声。支援呼びかけの広がり。ささやかな援助。目的を持った仲間のすばらしさ。そんな一つ一つが、糸のように結ばれ、波紋のような広がり在今后ももたらすという事になり、「眼」を意味するミカの会が生まれました。（ネパールの佛塔に描かれた佛眼は印象的である。我々の眼もしっかり見開きたいもの。）

本会発足にあたって、ルンビニ開発信託事業団のヌルブ・ラマ君の招へい実現も、大変うれしい事である。

「思い」が形になるうれしさ。ゆっくりと時間をかけて、心の通い合える友を得て、今後もすすみたいものである。少しでもながく続けられるよう、お互い支え合っていきたいものです。是非、会員が一人でもふえるようご協力下さい。

尚、現在、ルンビニ地域の公立小学校、タンセン地区の三小学校支援などが、具体的に考慮中です。内容は校舎建て替え、図書室充実、トイレ整備、校庭整備など要望はさまざまですが、一つでも「その物の軽さを嫌わず、その功の実なるべきなり」という事になるよう、会員の皆様と協議しながら、もう一歩前に歩み出したいと考えています。

出会った縁を大切に、ささやかながら着実にいきましょう。



カラ・タパール(5565m)へのトレッキングで、サーダー以下10名の人間と3頭のヤクのサポートのお陰で、私達4人は永年の夢であった登頂とエベレストの頂を間近に仰ぎ見ることが出来た。要請したプライベートポーターとして紹介されたスナム少年は、サーダーのカロマ・ガルツェンの息子で中学2年生。初めての高度の経験と外国人と接しさせ視野をひろめることを兼ねて連れていきたいとの意向をうけて快諾した。

スナムは歳のわりに小柄であるが、礼儀たたく、愛敬のある好男子であり、一行は順調にルートを進めた。連々スナムにネパールソングの求めに、高い峰々をたたえるレッスンピーリーリーを披露し、いつのまにか全員の合唱となって、ドゥード・コシの谷間に響いた。お返しにチビまる子ちゃんの唄を指導、乗りのよさは全員が受け入れてピーシャラ、ピーシャラ、タッタタラタラ・・・と嬉々にこだました。

無事下山、お礼にさよならパーティーを開き、非常食の切り餅で雑煮に腕を振るう。チャンも加わり合唱やら、シェルパダンスなどお互いの友情と信頼の気持ちで盛り上がり、いつしか涙の感動的なパーティーとなった。

スナムとの別れの握手に大きな目にためた涙とぬくもりは、いまでも昨日のように思い出される。少年は立派な青年に成長し、家族やネパールのために活躍しているであろう。いまでもドゥード・コシの谷にピーシャラ、ピーシャラ・・・と元気な歌声がひびいているであろうか？ 十数日の僅かのふれあいが双方の良き思い出としていつまでも・・・。敬愛するネパールの人々との交遊にミカの会の活動を通じて、微力ながらお役に立つ事が出来ればと期待しております。

「 輪 」

八木 健 吉

古書店を併設された工房を持つ世羅美庵は面白い所で、坂さんの笑顔が何より嬉しい。七月十二日築田寺での「ラマさんを迎える夕」は会長さんのお話が何えず残念でした。団長としてネパールへ出発前、世羅美庵で初めてお会いし、お話のなか五輪塔（墓地に百数十基ある）に及び、その経輪の遠大さに驚嘆。副会長の高原さんは随分前、大淵さん宅でお会いした。真摯な歴史家で大経営者である。「古書と読者の雑誌」は百冊は手にしている。「ラマさんは何日でもうちに来て」と寄ば大樹。迎えてネパール食とは？。幸な舌鼓。ラマさんの臍はかがやき、笑顔が印象的。これからも互いに眼を見開き、ネパールに秋波を！！。

「ミカの会に入って」

今坂 郁子

ある日、突然、「花の家」で、「ネパールへ行きます！」と言う福田剛君のイキイキした声を聞きました。この時私も剛君達と旅がしたい！ネパールへと思ってしまいました。今迄遠い存在だった国が、急に身近に感じました。その後の高原書店での帰国報告展、ネパールの子供達の澄んだ目、澄んだ空気まで感じられる写真、どれを見ても、久し振りにワクワクしました。そして気がついたら「ミカの会」に入っていました。どうぞよろしくお願い致します。



ネ バ ー ル の 友 を 迎 へ て	中 の 夕 べ を	福 国 の 科 理 智 を さ む し て	ネ バ ー ル の	友 は 汗 し て 耐 に 立 ち ぬ
集 ひ あ る	ひ ぐ ら し の 暗 く			

井
藤
美
江
子

「朝顔」

平沢 友子

二年前、娘が小学一年生の時学校の生活課の授業で育てた朝顔の鉢を夏休みに持ち帰って来た。それから毎日水やりをしたおかげでみごとなピンクの花をいくつも咲かせることができた。慈しむと花もそれに答えてくれるのだなあとうれしくなった。

今年は五月の連休に私と夫と娘と、発泡スチーロールの箱に11粒の種をまいたところ7粒が発芽した。土をおしのけかわいい二葉をつけていたのだが、二つはかれてしまい、五つになってしまった。二つずつ二鉢に移植し、残りの一つは知り合いにあげた。娘と私で交互に水やりをしているのだが、一つの鉢の方は元気につるをのぼして何れも心配ないけれど、もう一つの鉢は、発芽の時から小さく弱々しかったせいかまだつるものびてこなかった。それが二日目前からようやくつるらしきものが1cmほど顔を出した。「がんばって大きくなるんだよ。」と娘と毎日鉢をのぞいている。

「ラマさんとの一週間」

高原 坦

- 七月六日、福田さん達とラマさんを迎えに関西空港へ、坂さんと合流してラマさんを迎える。ラマさんと徳島へ行くことにしていたので、徳島行高速艇乗り場へ行く、待合所のレストランが工事のため休んでいたの、売店で柿の葉寿司を買う（これしかない）日本で最初の食事が柿の葉寿司になってしまった。徳島へ向かう高速艇は、強風で大揺れ、初めて船に乗ったラマさんにとって大変だろうと思ったが、平気な顔をしている。柿の葉寿司といい、船といい強烈な出迎えとなってしまった。徳島駅でカキ氷を食べる、これも初めて、夜、日本の田舎のふつうの料理、みんなとうちとけ、ネバールの話や、ネバールのCDを聞く。
- 七月七日、倉庫で本を束ねる重労働汗だくの仕事だったが、苦にもせず、よく働く。夜、近くの温泉泊、初めての温泉、初めてのサシミ、何でも意欲的に体験する。
- 七月八日、昼過ぎまで昨日と同じ仕事。
- 七月九日、大鳴門橋見物、うず潮記念館、非常に楽しそうだった。夕方プールへ。水泳指導。何でもすぐできるラマさんも水泳だけは苦手のようだ。
- 七月十日、運搬重労働。
- 七月十一日、午後まで働く、夜東京へ。
- 七月十二日、ネバール料理作り、ミカの会。

エヴェレストの近くの三千mの高地で生まれ優秀な成績でカトマンドウの大学を出たラマさん、一週間近くいっしょに生活すると、多くのことを教えられます。国際交流は表面だけでなく、深く人と接することでより理解が深まります。ミカの会がいい会になるようにと思います。

写真を見る度にある時は夢のように、ある時は鮮明に脳裏に蘇ります。

たった一度のネパール行きでイメージを作るのは良くないと思いながらもネパールってどんな所と聞かれると、思わず美しいけど、人間が人間らしく生きている国、歴史と自然の融和する不思議な国と答えてしまいます。

物質的な豊かさに慣れ、豊かさの基準を物に置く日本人から見ると、確かに世界でも最低のGNP,所得かもしれません。在り来たりですが、心の豊かさは簡単に計れませんが、その大切さを自覚させられる国、国民

であることは間違いありません。

日頃雑事に追われ、大切な時間を持つことを忘れていた私には、たとえ年に一度でもネパールを訪れることが

可能であれば豊かさとは、家族とはと考える時間を持つことが出来ます。

自分が何を出来るかではなく、自分の出来ることで喜んでくれる人が一人でもいてくれたら行動しよう、それが自分の喜びでもあるのです。

凡人の私は毎日感謝の気持ちで善行をしているわけではありません。毎日仕事に追われ、時には醜い争いをするしりととても天国には行けそうもありません。でもほんの少しの時間は自分のため、恵まれない人のため

何かをしたいと思うこともあります。本当の善人ではないので恥ずかしいのですが、何もしないより少し良かかなと思っています。こんな気持ちで皆さんと行動するのは、申し訳ないのですがご迷惑を掛けないよう努力しますので末永くお付き合いお願いいたします。

ネパール支援チャリティーポウリング大会

ネパール、世界最貧国といわれるヒマラヤ山国は先進国からの援助、支援で成り立っています。家予算の半分は海外に依存、子供たちの教育も劣悪な環境で行われております。ヒマラヤの山々の美しさと相反するような首都カトマンズの排気汚染のひどさ、先進国の援助で世界的な資産を保護して行きたいものです。

さて、1日の給料が平均200円、月給が6,000-8,000円のネパールには勿論ポウリング場もありません。田舎の子供たちは首都カトマンズに出かけるのも大変な状況です。子供たちは純粋で、とても綺麗な目をしていて、私たちが日本のポウリングファンは経済的には世界で指折りの豊かな国で生まれました。1ゲームの代金で1日の生活が十分で暮らせます。皆様のご理解を頂き、趣味をつうじて少しでも国際社会に役立てればと考えます。

回の大会からの支援金は基本的に小学校の修理、備品の購入、鉛筆、ノート、井戸の掘削などに当てる予定です。必ずネパールの子供たちに直接届けます。(?)

・ネパールミカの会 町田、相模原を中心にネパール支援をしています。代表は町田市忠生 梁田寺住職斎藤謙也氏で地道な活動をしております。

世話人代表 加藤 誠一、小野田 義之、望月 重男

連絡先 ジャスコスペーススレーン又は

(株)加藤石材店内 加藤、奥木まで TEL 0427-27-0111 FAX 0427-29-4114

ネパール支援チャリティーポウリング大会

日時：1997年9月3日(水) 受付終了PM8:00 ゲームスタートPM8:30

会費：3,000円 資格：フリー

競技方法：3ゲームトータル スクラッチ

A.女性 HDCP 20pin B.60才以上 HDCP 10pin C.小学生以下HDCP 20pin

締め切り:8月25日

Handwritten notes and diagrams on the right side of the page, including arrows pointing to specific text and a small diagram of a cube.